

当検査部は山梨大学附属病院の中央診療部門の一つとして、検体検査及び生理学検査などの臨床検査業務を行っています。

臨床検査に関わる医師には下記の能力が求められています。

- 各種臨床検査に関して、臨床医のコンサルタントとして機能できる。
- 診断・コメントが必要な各種検査報告書が発行できる。
- 臨床検査医学の実践を通じて、予防医学・健康管理に貢献できる。
- 検査部や臨床検査に関連した部署の適切な管理・運営ができる。
- 臨床検査医学の分野で研究を遂行し、研究指導ができる。

プログラムの概要 ※現在初期研修医の受け入れは中断していますが、参考として掲載しています

1. 初期研修2年目の選択科として1か月、検査部で研修を受けることが可能でしたが、現在は受け入れを中断しております。
2. 初期研修修了後、検査部・臨床検査医学講座で3年間の後期研修を行い、通算5年間(初期研修2年を含む)の研修を修了すると、基本領域専門医のひとつである、日本臨床検査医学会臨床検査専門医の受験資格が得られます。
3. 将来臨床検査専門医の取得を目指す場合の研修内容を下記に提示しますが、他科への進路を考えている研修医にはそれぞれの進路に適したプログラムをアレンジしておりましたが、現在は初期研修医の受け入れは中断しております。
4. 臨床検査専門医は臨床検査を専門とする医師ですが、当然、臨床医として必要な基本的知識、技術、態度の修得が必要です。従って、内科系を中心とした一般臨床研修により、医師に必要な幅広い診療知識と技能もあわせて修得することが望めます。

アピールポイント ※現在、初期研修医の受け入れは中断していますが、2, 3は行います

1. 臨床検査医は、臨床検査室の管理、超音波検査などの診断業務、診療科からのコンサルテーションに対応するなどの病院診療のみならず、臨床検査に専従する医師であるため、保険診療において病院経営面(検体検査管理加算IVの獲得)においても貢献しています。
2. 当検査部では、他科の研修中であっても事前にご連絡いただければ、夕方などの勤務時間外に検査に関する疑問への対応や希望する研修を実施することも可能です。
3. 臨床検査技師による、超音波検査ハンズオンセミナーを開催しています。
4. 血液・腫瘍内科の枠内で止血凝固外来を行い、術前検査で凝固検査異常を示した患者さんなどのコンサルテーションをおこなっています。あまりなじみのない血小板・凝固異常について集中的に学ぶことも可能です。
5. 大学院部門である臨床検査医学講座では、血栓止血分野の新たな検査法開発や、分子細胞生物学的研究手法を用いた基礎的な血小板研究を精力的に行っています。
6. 臨床検査専門医について詳しく知りたい場合には、日本臨床検査医学会の「臨床検査専門医を目指す方へ」(<https://www.jslm.org/recognition/purpose/index.html>)もあわせてご参照ください。

具体的な研修内容 (後期研修医(臨床検査専攻医)の研修内容)

1. 臨床検査医学総論
2. 一般検査(尿検査、尿沈渣)
3. 血液検査(血液像、血小板機能検査、凝固線溶検査等の実施、評価)
4. 生化学・免疫血清検査(検査結果の解釈、パニック値への対応)
5. 細菌検査(細菌の染色、塗抹標本上の細菌同定)と院内感染対策
6. 生理機能検査(心電図、呼吸機能、超音波検査の実施、評価)
7. 遺伝子検査(遺伝子診断の基本操作)
8. 輸血学(ABO/Rh血液型、交差適合試験)
9. 検査部管理業務への参画
10. 止血凝固外来や臨床検査医学講座での勉強会への参加

検査医としての診療業務は検査部の管理運営や一部の検査結果へのコメント、コンサルテーションが主になり、実際の検査業務は臨床検査技師が行っています。上記の多くを、臨床検査技師が指導を担当します。

後期研修の希望や、スポットで特定の検査手技の研修を希望の方は、検査部長 井上克枝 (katsuei@yamanashi.ac.jp)までご連絡ください。



最新の検査機器が稼働中「より速く、より正確に」